

2022年12月7日

東京大学医学部健康総合科学科 卒論生

佐藤 詠美

糖尿病患者の食事改善に対する自己管理支援 ICT システム DialBetesPlus の有効性の評価

糖尿病によって引き起こされる糖尿病性腎臓病(diabetic kidney disease:以下 DKD)は従来使われてきた糖尿病性腎症の概念に加え、尿中アルブミン濃度が特異的な疾患像を包含する新しい概念である¹。2型糖尿病患者の42%が合併しているとされ、糖尿病の患者数の増加に従って今後も増加が予想される²。患者が食事内容と運動習慣を改善することによって、DKDの予防・改善につながると考えられる。

本研究では、DKDを有する患者に対する自己管理支援 ICT システム DialBetesPlusの有効性を評価するために行われた前向きランダム化非盲検多施設共同臨床試験を扱う。対象者は微量アルブミン尿を有する2型糖尿病患者で、主要アウトカムは尿中アルブミン濃度である。

本研究では、この臨床試験で得られた患者の食事記録を使用する。解析に用いる食事データは介入開始時(ベースライン)、介入開始6ヶ月後、介入終了時(12ヶ月後)の三時点である。DialBetesPlusがDKDを持つ患者の食事をどのように変化させたのかについて明らかにすることを目的として、各栄養素摂取推定量の推移に対する介入の影響について混合効果モデルを当てはめ、介入の影響を推定する。

抄読会では、食事記録表からデータベースを作成した方法と統計解析に用いたモデルについて説明する。また、分析結果として時点ごとの栄養素推定摂取量の比較と混合効果モデルによる推定について発表し、今後の分析の計画について説明する。

【参考文献】

1 岡田浩一, 安田宜成, 旭 浩一, 他. エビデンスに基づく CDK 診療ガイドライン 2018. 日腎会誌. 2018; 60: 1037-193.

2 Yokoyama H, Kawai K, Kobayashi M; Japan Diabetes Clinical Data Management Study Group: Microalbuminuria is common in Japanese type 2 diabetic patients: a nationwide survey from the Japan Diabetes Clinical Data Management Study Group (JDDM 10).